

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891300133
法人名	社会福祉法人 くりのみ会
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 くりのみ土居
所在地	愛媛県四国中央市土居町津根3008-1
自己評価作成日	平成 28 年 8 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、個々での生活に配慮をしながらのサポートを行っています。日頃の健康管理にも十分注意しており、急変時・特変時には、協力医療機関と連携を図り、対応を行っています。また、施設内にあるリハビリ施設を利用して、一人ひとりにあったリハビリを行っており、心身機能の向上を図っています。ホーム内では、季節を通して園芸を行っており、特に夏に収穫した野菜で漬け物を作ったり、サラダの彩りに足して食べたりしています。外出にも力を入れており、季節の花を見に行ったり、外食を行ったりしており、入居者様が楽しく生活が送れるように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 9 月 6 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域密着型介護老人福祉施設、短期入所生活介護、通所介護が併設された鉄筋2階建ての複合施設の2階にある。畳敷きのフロアは和の空間となり、家庭的な雰囲気づくりをしている。敷地内には、リハビリ施設やグランドゴルフ場があり、複合施設内の利用者や地域の方にも開放され利用されており、地域の方との交流の機会はある。管理者と職員は、地域行事に参加したりボランティアを受け入れるなど、利用者が楽しめるよう努めており、理念を基に利用者の日々の暮らしを支えている。また、職員の研修参加や指導体制など法人として確立されており、施設内外の研修会への参加など、勉強の機会も豊富であり職員のスキルアップに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 認知症対応型共同生活介護事業所

(ユニット名) くりのみ土居

記入者(管理者)

氏名 河村美樹

評価完了日

平成28年8月18日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所の理念を、朝の申し送りやミーティングの前に斉唱したり、掲示の場所を考えて見える所に置き、常に意識できるようにしています。</p> <p>(外部評価) 開設当初からの理念をユニットのよく見える場所に掲示し、日々の業務に生かし利用者の暮らしを支えている。管理者は、理念について職員とよく話し合いながら共有している。新人職員には、日々の利用者との関わりの中で、理念の理解を深められるように説明し共有している。</p>	開設6年目を迎えており、職員は利用者の状況をよく理解し意見も的確に言えている。理念を踏まえた行動指針を職員間で話し合い実践に繋げるとともに、職員のさらなるスキルアップを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 季節を通して外出を行っており、春夏秋冬を肌で感じていただきながら、地域の方との交流を図っています。また、施設全体では納涼祭や敬老会のイベントに地域の方やご家族様を招待したり、秋のお祭りには、近くの太鼓台が来て下さり、賑やかに場を盛り立ててくださいます。</p> <p>(外部評価) 天気のよい日には、建物周辺や近くの駅までの散歩を行っている。また、地区の高齢者の集いに参加したり、祭りに参加している。地区の小学生、幼稚園児、保育園児や地域のボランティアの訪問が定期的であり、利用者は楽しみにしている。また、専門学生の実習生や高校生のインターンシップ等の受け入れもしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議や慰問、ボランティアの受け入れの際に、認知症についての話をを行っています。また、家族様や来客の方へ向けて、靴箱の所にリーフレットを置いたりし対応しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議には、入居者様も参加していただき、自由に意見を言ってもらっています。会議の中で出た、問題点や指摘点は、ミーティングなどの時間を遣い職員間で話し合います。また、その点に関して改善があった場合は、運営推進会議にて報告を行っています。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、利用者、2地区の民生委員、地区社協、市職員、地域包括支援センター職員の参加を得て、2か月に1回開催している。会議では、利用者の情報及び活動内容や行事の様子等報告を行い、参加者との意見交換が行われている。家族の参加が得られていないなど、参加者の固定化が見られている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 月に1回、ふれあい相談員さんが訪問されます。また、運営推進会議においては、地域包括支援センターの職員にも参加して頂き、情報交換を行っておりその都度気になった事は話し合いを行っています。</p> <p>(外部評価) 市及び地域包括支援センター職員は、運営推進会議に出席し事業所の様子や取組みを把握するとともに、情報提供や助言を行っている。ふれあい相談員の定期的な来訪を利用者は楽しみにしている。また、市主催の認知症等の勉強会などにも積極的に出席している。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 施設設備を活用しながら、身体拘束を行わないように努めています。その方にとって必要になるものがある場合は、職員間で話し合いを行い、意見交換をしっかりと行うようにしています。また、勉強会や委員会の開催に参加し、知識を共有し活用できるように努めています。</p> <p>(外部評価) 日中玄関の施錠はしていない。また、職員全員が利用者との会話で言葉による行動制限をしないよう努めている。法人全体の身体拘束や虐待等についての研修会への参加や利用者の状態に合わせた話し合いなどの勉強会を開催しており、管理者と職員は身体拘束をしないケアを十分理解し実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 委員会への参加や勉強会の開催を行い、スタッフの意識を深めていくように努めています。委員会からの啓発用ポスターを、スタッフの目の届く場所に貼り出し、常に一人ひとりが意識できるようにしています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会に参加し、知識を他の職員と共有・活用できるように努めています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時などの説明を行う際に、パンフレットや利用契約書、重要事項説明書等の書類で詳しく説明を行うようにしています。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族様の面会時や日常報告の電話連絡時等に、意見や要望をお伺いできるように努めています。頂いた意見に関しては、職員間で報告・話し合いの場を設けたりし、改善へ向けて動けるよう努めています。また、玄関先にも「意見箱」を設置し、直接では言いにくいことなども入れていただけるようにしています。 (外部評価) 家族には、面会時に確認したり日常報告の電話を掛ける際に要望や意見を聞いており、集約した意見は職員間で話し合い共有し業務に生かしている。事業所の玄関先に意見箱を設置しているが特に意見などは入っていないため、管理者は、比較的家族からの意見が出やすい家族会の開催を前向きに検討している。	事業所では、敬老会に家族に参加してもらい家族間の交流を図っている。管理者は、家族からの意見や要望が出やすい家族会を持ちたいと考えており、家族からの本音も聞け、利用者のケアの向上に繋げる意味でも家族会開催の実現を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月ミーティングを実施しており、職員間での話し合いを行う場を設けています。また、ミーティングの時間以外でも、話を行うことができるように、普段からの雰囲気作りも大切にしています。 管理者で対応が困難なことは、施設長に相談をし対応を行っています。	
			(外部評価) 職員全員が参加のミーティングを毎月1回開催し、運営に関する意見を出し合いサービスの向上に繋げている。管理者は、出た意見で対応困難なことは施設長に相談し対応している。管理者は、職員からの意見や要望が出やすいような環境づくりに努めたり、職員の資質向上を図るための研修参加や資格取得支援など配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時に、職員の努力している所や実績などについて直接本人と話す機会を持つようにしており、資格習得時には支援制度があり、資格習得に当たってのバックアップを行い、向上に努めています。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 同グループの職員との合同での勉強会への参加を行っています。外部の研修にも、積極的に参加できるように、職員間で情報提供し、参加も募ったりしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修先で知り合った方々と、連絡を取り合い交流を図っています。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にお話を十分に伺うようにし、なるべく不安を取り除くように努めています。入居後も不安や要望を会話や行動の中から伺えるように、注意しながらのケアに努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人様同様に、家族様へも入居前のお話を十分に伺えるようにし、希望なども伺えるように対応しています。入居された後も、面会に来られた際などに声をかけさせていただき、話を聞き出せるようにしています。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 施設見学にてパンフレットを利用して説明を行ったり、介護保険の内容を説明したりしています。また、必要だと思われるサービスについての提案も行っています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 第一にご自分で出来ることをしていただきながら、生活の中で「おやつ作り」「居室の掃除」「ゴミ出し」等を行っていただいています。必要に応じての支援を行うようにしています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 普段より、本人様の状態の報告行い、何かあればすぐに連絡し来室していただけるようにしています。また、家族様と職員がスムーズに話ができるよう、日頃よりの関係作りに努めています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会者が来られた場合などには、ゆったりと過ごしていただけるように場所を提供しています。また、本人の馴染みの方で同法人のデイサービスやショートステイを利用されている方との交流では、職員同士の連絡を取り合うことで、関係を保たれていると思います。 施設外での面会につきましては、家族様に相談を行いなるべくは希望に添えることができるように対応しています。	
			(外部評価) 母体法人のデイサービス等を積極的に利用することにより地域住民と馴染みになった利用者もおり、その関係が継続するよう支援している。また、遠方の知人や馴染みの美容室などは、家族が付き添い出向くことにより利用者との関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様の関係・状態について、気になることは職員同士で話し合うようにし、全体で話ができるように申し送りやミーティングにて伝達を行い、ケアに繋がるようにしています。また、あまり関わりすぎるといけない入居者様には、必要最小限にて対応を行っています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) その方の状態を気にしながら、不定期とはなりますがこちらから様子を伺えるよう対応しています。また、いつでも相談に乗れるように、信頼関係の構築に努めています。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員が日常生活の中において、入居者様の意見や希望を伺いながら、申し送りやミーティングにて報告を行い、職員全員で情報の共有を図り、統一したケアが行えるように取り組んでいます。  (外部評価) 利用者一人ひとりの思いや要望については、ゆっくりと話をよく聴き丁寧に観察することで把握している。また、意思疎通が上手くはかれない利用者には、気持ちに寄り添い無理強いすることなく、話す気持ちになるまで待つなどし、思いや意向を把握するよう努めている。また、家族の面会時には必ず見送りをしその際に意向の確認をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居される前後に、ご本人様や家族様、担当のケアマネさんより情報収集を行い、職員間でその情報を共有できるようにしています。また、その方のことで入居後に分ったこと等は追記を行い、情報共有は図っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表の活用を行うことで、一人ひとりの一日の状態が把握できるようにしています。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っており、職員で入居者様のことについて話をし、思いなどを把握して介護計画の作成を行っています。家族様へは、会への参加が難しかった場合には、カンファレンスで話し合った内容や意見などを面会時などにお伝えし、意見交換を行っています。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の意見や要望を反映し、職員からの意見を出し合い介護計画を作成している。モニタリングは3か月に1回行っており、介護計画の見直しは6か月毎に行っている。なお、利用者の状態に変化がある場合はその都度見直ししており、新たな介護計画については、家族の面会時に説明し同意を得ている。利用者の個別記録表を作成し、日々の状況を細かく記録しパソコンでデータ管理しているため、職員の閲覧も迅速にでき、業務の効率化に繋がっている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別記録表を利用し、日々の状況を細かく記載するよう心がけています。気づきや工夫した点をスタッフ同士で共有し、実践できるように努めています。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人所有の設備（リハビリ施設や交流センター、入浴設備、福祉車両等）を、その時々で入居者様の状態や要望に合わせてながら、また、他部署との連携を取りながら柔軟に対応行っています。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 民生委員やボランティアの方と連携を図りながら、また、地域住民の方からの情報を素に、外出などを行う為の情報を得て、入居者様が楽しんで生活出来るように支援しています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入居前のかかりつけの先生との関係を入所されてからも断ち切 らないようにしており、必要があれば受診や連絡を行う様に しています。また、本人様や家族様の希望を伺いながら協力機関 や協力歯科医療機関との連携も図りながら、対応を行っていま す。	
			(外部評価) 入居前のかかりつけ医を継続している利用者が多く、家族の協 力を得て受診を行っており、利用者の状態により職員も同行し ている。月2回の協力医の往診や、月1回歯科衛生士が来訪し 利用者の歯の状態を把握するようにしており、必要に応じて歯 科医の往診もある。また、専門外来へは、家族の協力を得て通 院できるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 施設の看護師や医療連携の看護師共に、入居者様の健康管理や 健康状態の把握を努めるようにしています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入院時の情報提供をいち早く行い、スムーズに治療できるよう にしています。また、定期的な訪問により状態の把握を行い、 地域連携室との連携を図りながらスムーズに退院ができるよう にしています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 終末期に向けては、まずは主治医からの説明を行い、家族様か らの意向も確認し、施設での他部署との協力を得ながら、その 方の支援を行うように努めています。	
			(外部評価) 事業所として「看取りに関する指針」を作成しているが、これ までに看取りの経験はなく、医療機関に搬送することが多い。 職員は定期的に見取りに関する研修会に参加するなどし理解を 深めている。今後は、利用者の状態に応じその都度利用者や家 族と話し合うなどし、対応する方針である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 毎年、消防署による出前講座により、実際の急変時への対応に備えた講義(心肺蘇生・AED)を受け、模擬実践を行っています。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎年、年2回防火防災避難訓練を実施しています。施設内の職員との連携を図れるようにし、災害時に対応できるように努めています。また、市が発行している防災マップを活用し、災害の遭遇の地域と協力出来るように、地区自治会との連絡体制を確立し、防災力の向上に努めています。  (外部評価) 年2回消防署の立会いのもと、施設全体で避難訓練を実施している。災害に備えるため市の担当者による防水、防火等についての講義を受講をし職員の知識を深めている。また、災害時には事業所のある複合施設に地域住民の受け入れができるよう検討している。職員の緊急連絡網は整備されているが、実践訓練には至っていない。災害時備蓄品は、確保されており安心である。	職員の災害対策についての意識は高く、緊急連絡網も整備されているが、実践訓練はできていないため、連絡体制の再確認の意味でも緊急連絡網を実践し、災害時に備え万全を期して欲しい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者様のプライバシーを損ねないように、日頃より一人ひとりに対する対応の仕方などを注意しています。また、プライバシー保護の勉強会を行い、職員各自の意識を高め、何かあれば話し合いができるように努めています。  (外部評価) 職員は、思いやりのある声かけをするよう心がけ利用者一人ひとりに寄り添い対応している。入浴やトイレ誘導の際には、利用者が羞恥心を感じないように声かけには十分配慮している。また、居室のドアは常に閉めており、プライバシーを損ねないように入室の際は、必ず分かるようドアをノックしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人様の希望や思いが、話しやすい雰囲気作り・環境作りを行う心がけています。話された内容に関して、その場でアドバイス出来ることなどは、本人様が理解し納得できるようによく説明を行うようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 毎日の健康状態の把握をしっかりと行い、その日によって状態は違ってくるので、その方のペースを崩すことなく生活していただけるよう努めています。本人様の希望にて、入浴の時間を遅くしたりして対応も行っていきます。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出をされたり更衣をされる際には、ご自分のタンスの中の物をご自分で選んでいただけるように声をかけたり、助言を行ったりしています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物をその季節に召し上がっていただけるように、食事の提供を行っています。食事に関しては、人それぞれですが味の濃さや固さ、量などを入居者様から伺えるようにしています。下膳や食後のお盆拭きなど、手伝ってまいります。また、おやつ作りは入居者様の食べたいもの等を伺い、一緒に作っています。	
			(外部評価) 複合施設の厨房が1階にあり、調理した食事をユニット内のキッチンで盛り付け配膳しているが、ユニットで調理したりおやつを利用者と一緒に作ったりもしている。職員も一緒にテーブルを囲みながら利用者と同じ食事を摂っている。また、利用者の状態に応じた食事形態や愛用の箸やコップを使用するなど、利用者が食事をしやすいよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は、職員が見守りを行っており、毎食後に食事量のチェックをしています。水分補給も定期的に行っていただけるようにしており、毎食時の時、入浴後、レクリエーション後、リハビリ後等に提供を行っています。また、入居者様から希望があった時やご自分で飲みたい時に飲めるように、お茶の準備を行っています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後に口腔ケアの声掛けを行っています。ご自分ではしっかりと磨くことができない方には、特に就寝前の口腔ケアを行い口腔内の確認を行っています。また、協力歯科医師の往診にて連携を図っており、歯科衛生士による職員への指導を行ってくださったりして、入居者様の口腔内の清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) その方の排泄のリズムを掴めるように、状態に合わせて排泄チェック表を使用し、トイレ誘導や見守りを行っています。また、その方にあった排泄介助が行えるように、ミーティングやカンファレンス等で話し合い、ケアに繋がるようにしています。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し一人ひとりの状態に合わせて支援している。入居時に紙パンツから布パンツに替えることができた利用者もいるなど、自立に向けた支援が行われている。各居室にトイレが設置されており、利用者が安心してトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の場合、まずはなるべく自然排便が促せるように運動や水分補給を行っていただくように促しています。しかし、それでもどうしても出ない場合には、医師や看護師に相談を行い、便秘薬を使用するなどの対応を行っています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は、基本週3日の入浴を実施行っています。一人ひとりがゆったりと入浴できるように心がけており、本人様の希望によっていつでも入れるように、準備は行っております。また、その方の希望の時間がある場合には、その時間に入浴できるように対応を行っています。	
			(外部評価) 利用者の身体状況を把握し週3回は入浴できるよう支援している。入浴の苦手な利用者には、声かけのタイミングをずらしたり職員を交代するなどし、無理強いすることなく入浴できるよう努めている。また、冬場には入浴剤などを使用し香りを楽しみながら気持ちよく入浴できるよう努めており、利用者も喜んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 消灯時間後にも、なかなか寝付けない方がいたりする場合には、居室に備え付けてあるテレビを見ていただいたり、職員がしばらく側にいて話を伺ったりして、個人の睡眠ペースを尊重できるように対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 現在服用されている状況が分かるようにチェック表を用いています。また、服用中の薬、変更になった薬等をすぐに情報が共有できるようにしており、新しく処方された薬に関しては、特に状態観察を行うようにしています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) これまで行ってきた活動に加えて、その方の趣味等も活かしながらの対応を行っています。現在、花の水やりや園芸からの漬物作り等を行っています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出希望がある場合には、家族様と相談行い、本人様の体調を伺って調子がいいようであれば、自由に外出を行っていただいています。なるべく家族様に協力をいただき外出を行っていますが、職員が同行したり、外出先の方に協力いただくこともあります。 (外部評価) 季節行事等で観光地などに花見や外食に出かけるなどの支援をしており、利用者の楽しみとなっている。広い敷地内にリハビリ施設やグラウンドゴルフ場があり、毎日午後の時間に利用者全員で参加し、気分転換を図っている。利用者と一緒に買い物に出かけたり、家族の同行により外出するなど、利用者の要望に応じた外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 所持に関しては、その方の状態によりますが、認知症が進行し物盗られ妄想などがある方や、ご自分での管理が難しい方には、家族様の協力を得て、必要な時に必要な分だけをお預かりするようにしています。基本は、自由に所持を行っていただいております。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は、ホーム内の電話を自由に使用行っていただいています。お便りや年賀状の送付を行い、グループホームでの生活を家族様に知っていただけるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホーム内は全て畳敷きになっており、家庭の環境に近い雰囲気になっています。居室やラウンジ等大きな窓を使用しており、自然の光が取り入れられるようしております。掲示物には、職員と一緒に作った飾りや、外出での様子の写真を飾っております。</p> <p>(外部評価) 事業所の出入り口は木製の格子の引き戸で、リビングルーム、廊下、居室はすべて畳敷きの和の空間になっており、心地よくくつろぐことができる。リビングには、利用者の陶芸などの作品が展示され落ち着いた雰囲気となっているほか、大きな窓がありテーブルや椅子も置かれゆったりとした気分になることができる。また、窓からの景色は、庭にグラウンドゴルフ場の芝生や、すぐ横を電車が通過する様子が見えるなど、利用者は気持ち落ち着き穏やかに過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ラウンジにはテーブルと椅子を設置し、外を眺めながらゆったりと過ごされたり、気のあった方と話をしながら過ごされたりしています。また、リビングには食堂とくつろぎスペースを設けており、その時にその方の過ごしたい場所で過ごしていただけるようにしています。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内には、本人様で使用されてきた物や思い出のある物などを置かれています。本人様が居心地の良い、暮らしやすい環境になるように工夫しています。</p> <p>(外部評価) 居室の入口は広く、畳敷きで中にはベッド、トイレ、洗面台、カーテン付きのクローゼット、衣装ダンス、テレビ、冷蔵庫が設置されている。また、利用者の気に入ったものを持ち込むことができるため、写真や小物等思い出の物が居室内に置かれ家庭的な空間となっており、居心地よく過ごせることができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 個々人の「出来ること」や「わかること」を職員が把握し、ケアを行うようにしています。職員間でその方の状況を話し、出来ることが増えるような支援を行えるように努めています。</p>	